

# 宇佐海軍航空隊

## 【概要】

宇佐は地方豪族の墓である古墳も多く、また全国八幡宮の総本社である宇佐神宮もあり、古くから文化の中心地でした。この宇佐に、昭和14年から20年までの約6年間存在したのが「宇佐海軍航空隊」です。

昭和12(1937)年の盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まり、海軍では戦闘機などの軍用機の搭乗員の養成が急務となりました。大分県では佐伯・大分に次いで3番目となる宇佐海軍航空隊が昭和14(1939)年に開隊され、航空母艦で離発着する艦上攻撃機と艦上爆撃機の操縦員や偵察員を養成していました。

敷地は古代の条里制が残る広大な農地を造成し、東西約1,200m、南北1,300m、敷地外の施設を含め約184haの広さでした。

昭和16(1941)年に真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まりますが、敗色が濃くなった昭和20(1945)年2月からは、神風特別攻撃隊の中継基地となり多くの若者が南の空に飛び立っていきました。一方で、宇佐海軍航空隊は空襲の目標とされ、航空隊やその周辺で多数の民間人の方も亡くなりました。市内には数多くの戦争遺構が残されており、戦争の悲惨さを現在に伝えています。

## 【航空隊のあゆみ】

### 昭和14(1939)年

10月1日 練習航空隊として宇佐海軍航空隊開隊

### 昭和16(1941)年

12月8日 ハワイ真珠湾攻撃により太平洋戦争開始

### 昭和17(1942)年

6月4日 ミッドウェー海戦で日本海軍大敗北

### 昭和19(1944)年

7月 サイパン島陥落、米軍による本土空襲本格化

### 昭和20(1945)年

2月11日 第721海軍航空隊(神雷部隊、人間爆弾「桜花」による特攻隊)が宮崎基地から移動

2月16日 110名の特攻訓練が命令される

3月1日 練習航空隊から実戦部隊となる

3月18日 米軍艦載機による初空襲で大きな被害

4月6日 神風特別攻撃隊の第一八幡護皇隊が沖縄へ特攻出撃

5月11日までの出撃で81機154名が戦死

4月21日 米軍B29爆撃機の初空襲で壊滅的被害

5月5日 宇佐海軍航空隊解隊、西海海軍航空隊宇佐基地に

8月15日 終戦



宇佐海軍航空隊の正門

左奥の建物は司令部庁舎



宇佐海軍航空隊の九九式艦上爆撃機

後の建物は格納庫

## 【宇佐の戦争遺跡 1】

宇佐海軍航空隊があった宇佐には、現在も多くの戦争遺構が残されています。戦後70年を過ぎ戦争体験者が少なくなるなか、遺された遺構は戦争の実像についての「物言わぬ証言者」とも言えます。戦争遺構を巡って「宇佐の地も戦場であった」ことを実感し、平和の大切さと命の尊さについて考えていただければと思います。



城井一号掩体壕(宇佐市史跡) 零戦のエンジンを展示



滑走路跡とモニュメント 本来の幅は約80m



宇佐海軍航空隊正門跡 正門門柱のレプリカ



爆弾池(宇佐市史跡) 本来の直径約10m



落下傘整備所(宇佐市史跡) 機銃掃射の痕が残る



半地下式コンクリート造建物(宇佐市史跡) 受信所か？



## 【宇佐の戦争遺跡 2】

宇佐に多く残る戦争遺構は、「我が町も戦場であった」歴史を静かに伝えていきます。宇佐海軍航空隊の跡地は地域の人たちの努力でもとの水田に戻りました。現在残されているこれらの遺構を長く後世に伝えるため、今後、見学や平和学習をしやすいように順次遺構の整備を行う予定です。



エンジン調整場(宇佐市史跡) エンジンの点検整備



蓮光寺生き残り門(市登録文化財) 空襲を奇跡的に逃れた



航空隊踏切 唯一「航空隊」の文字が残る



宇佐海軍航空隊忠魂碑(市登録文化財)



高居地下壕(宇佐市史跡) 駅館川河畔に掘られた防空壕



艦爆標的 艦上爆撃機の訓練標的